

## 小中学生学力向上委員会 取組スケジュール

課題	施策	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◎全国学力調査および県学力調査の結果分析の普及	◎全国学力調査結果の分析と課題への対応 ・結果分析リーフレットの作成 ・教員の指導指図書(Good授業ナビ)の作成	17 全国学力調査実施日	← 非抽出校分を県で採点・分析 →		国採点分返送	調査結果の公表	結果分析リーフレット作成	→ 授業改善に活用 ←					
	◎指導指図書(Good授業ナビ)の作成	← 指導指図書(Good授業ナビ)の作成 →											
◎学力上位の児童生徒に対する学習意欲の喚起と学習環境の一層の整備	◎新4月の全国学力調査に向け、県学力調査実施時期を2月から12月に前倒しで実施。課題を分析し対応する。	← 県学力調査問題作成 →				問題試行	← 試行結果をもとに、修正 →				県学力調査実施	課題克服教材集の作成	授業改善に活用
	◎下位層の底上げ、中・上位層を伸ばすための習熟の程度に応じた少人数指導の導入(英語・数学) ・実践校による研究協議会での習熟の程度に応じた指導事例集の作成等	(3月) 事前説明会	体制づくり	← 効果的な習熟度別指導についての実践 →									活動のふりかえりと実践事例集の作成
◎平成24年度全国学力調査問題に加わる理科についての対応	◎新算数Webシステムの活用 ・小学校の算数において、ICTを活用して単元ごとの児童の理解度を相対的に比較するシステムの開発	← システム開発期間 (この間は、教材研究支援システムで単元問題を配信) →						← 算数Web稼働(配信する単元問題の作成および検討) →					
	◎新問題解決型の理科授業力を高めるための指導書(レシビ)の作成・活用	(3月) 準備委員会設置	推進委員会設置	← 3~6年用実験指導事例集作成 →		指導事例集発行	教員研修会	→ 授業改善に活用 ←					
◎総合的な学力の向上に向けた校内研究体制のさらなる充実	◎コア・ティーチャー養成事業(年間28校を指定)の実施 ・1校に年10回訪問し、国語の読解力、算数・数学の活用力を中心にOJTシステムを活用した研修を実施	事前研究会 I	授業研究会 I	事前研究会 II	授業研究会 II	事前研究会 III	授業研究会 III	事前研究会 IV	授業研究会 IV	事前研究会 V	授業研究会 V	→ 活動のふりかえりと実践事例集の作成 ←	

## 小中学生学力向上委員会 進捗状況

	5月末まで	6月	5/16 委員会での意見
◎全国学力調査結果分析と対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力・学習状況調査の実施(4/17)</li> <li>・抽出校分を国に送付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非抽出校分を県教育研究所で採点・入力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月末までに非抽出校の採点・入力を完了し、継続して分析する。</li> </ul>
◎県学力調査実施時期の変更と対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題作成ワーキングチームの委嘱</li> <li>・第1回ワーキングチーム会議の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科ごとに、随時県学力調査問題を作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県学力調査を12月に実施する。</li> </ul>
◎習熟の程度に応じた少人数指導の導入(英語・数学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル校担当者説明会の実施</li> <li>・アンケート調査(意識調査)の依頼</li> <li>・モデル校への学校訪問開始(5/15 三国中)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル校への学校訪問と、研究の進捗状況の確認(6/5 小浜第二中 以後順次実施)</li> <li>・アンケート調査(意識調査)の集計と分析(5月下旬～6月上旬実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・標準・発展等それぞれのコースの生徒が伸びる内容を考えることが重要である。</li> <li>・一人ひとりの理解度・定着度を様々な指標で分析することが必要である。</li> <li>・つまづきを早い段階で解決するという観点から、3年のみならず1、2年生でも段階的に取り組めるようにする。</li> </ul>
◎算数Webシステムの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業者選定とシステム等について、業者との打ち合わせ</li> <li>・単元評価問題の1学期分を県教育研究所の教材研究支援システムにアップするとともに、積極的な活用を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校で1学期分の単元評価問題をダウンロードし、実施・採点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小教研等の会でも丁寧にシステムの説明を行う必要がある。</li> <li>・課題のある単元を選んで実施する、できる学年から実施する等、手立てを工夫する必要がある。</li> </ul>
◎理科観察・実験レシピ集の作成・活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作成推進委員の委嘱(5/14,31)第1、2回レシピ集作成委員会開催</li> <li>・(5/11)小教研理事会でレシピ集の活用方法等を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(6/13)第3回推進委員会の開催、レシピ集の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画どおり作成する。</li> </ul>
◎コア・ティーチャー養成事業(国語、算数・数学)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校22校、中学校6校を指定</li> <li>・コア・ティーチャーを集めての説明会を実施(4/24)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回目の事前研究会および授業研究会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小・中学校とも教員の意識が高まり、授業改善につながっている。</li> <li>・指定校の学力調査の結果も向上しており今後の着実な継続が望まれる。</li> </ul>

## 高校生学力向上に係る主な取組スケジュール

委員会	施策	H24.4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
高校生 学力向上 委員会	○センター試験結果や 大学入試問題等の分析 を踏まえた教材等の作成  ・難易度別に大学入試 等の良問・模範解答等 の作成・データベース化 ・大学別学習アドバイス 集の作成							分析						教材・手引書・学習アド バイス集等の作成			完成・配付						各学校での活用														
	○土曜集中講座、志望 大学別個別対策講座の 開催										志望大学別個別対策講座									土曜日集中講座 1年生 英語、数学 2年生 数学、物理・化学						志望大学別個別対策講座			センター 試験			前期 試験			後期 試験		
	○生徒の学習意欲・学 習状況・授業満足度調 査の実施				調査項目・分析・活 用方法等の検討			全県立高 校で調査 実施									分析結果 報告・研 修会						各学校における活用(授業・指導法の改善等)														
	○普通科系の各高校独 自の学力向上の取組を 支援	事業説明会			事業ヒアリング			事業開始 (～3月)			大学への体験入学 ・各進学対策講座 ・先進校・予備校派遣研修等									外部助言者を招へいた公開授業・授業研究 会の実施																	
英語教 育推進 委員会	○NHKと協働してオリ ジナルテキストを作成				作成方針の決定			内容検討						内容検討						テキスト(案) 完成			学校で活用・修正						製本								
	○NHK英語教材の授 業等における活用・研究	活用計画の策定									分析・検討									分析・検討												教材研究支援 システムにアップ					

## 高校生学力向上委員会 進捗状況

	5月末まで	6月	6/4高校生学力向上委員会での意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・センター試験の結果や個別大学入試問題の分析を踏まえた教材・学習の手引等の作成</li> <li>・独自データベースの整備・活用</li> <li>・公開授業・授業研究会の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科担当指導主事による検討</li> <li>・センター試験自己採点結果等の分析</li> <li>・学習の手引等の内容</li> <li>・公開授業・授業研究会の効果的な実施等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(6/4)第1回高校生学力向上委員会</li> <li>・学力分析および学習意欲・学習状況・授業満足度調査の実施</li> <li>・指導方法の改善等</li> <li>・(6/8)第1回教科別検討部会</li> <li>・センター試験結果の分析</li> <li>・授業改善に資する取組 等</li> <li>※以後、部会を随時開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・難関大志望者を中心とした対策は、特定の高校のみを対象とするのではなく、福井県全体の引き上げにつながるようにすること。</li> <li>・例えば、2次試験とは何か、答案の書き方はどうするか等の内容も含めて、指導に役立つものを作成してほしい。</li> <li>・東大の合格数は、首都圏では私立のひとり勝ちである。また地方では医学科指向が強い傾向がある。このような状況の中で、県として難関大対策に取り組むことには意義がある。</li> <li>・成果物の活用については、誰のために作成して活用するのかを明確にして取り組むことが大切</li> <li>・昨年、各地域で開催した、教員の指導力向上に関する学校訪問・意見交換会を今年も継続するとよいのではないか。</li> </ul>
土曜集中講座、志望大学別個別対策講座の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜チャレンジセミナーの日時、会場の決定、業者との打合せ、見積依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校長協会への共催依頼</li> <li>・各学校に、開催日程等の周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>
学習意欲・学習状況・授業満足度調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(5/25)委託業務仕様書作成のため、関係業者と打合せ</li> <li>・(5/30)第1回学習状況検討部会開催</li> <li>・授業満足度を測る調査項目を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(6/7)第2回学習状況検討部会</li> <li>・アンケート調査項目の決定</li> <li>・実施方法等の検討</li> <li>・事前説明会について 等</li> <li>※以後、部会を随時開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単なる実態把握に留まらず、県、生徒、学校(教員)それぞれが、調査結果の分析をどう活用するかを明確にすること。PDCAでいえば、CのあとのAを意識すること。</li> <li>・各学校がすでに実施している同様の調査との差別化を図ることが必要</li> <li>・県全体に面として広げることも重要だが、各学校でデータを長期的に蓄積して改善に活かしていく視点が大切</li> <li>・得られたデータをどう見るかについて、活用も含めて各学校への十分な説明が必要</li> </ul>
普通科系の各高校独自の学力向上の取組を支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校の計画についてヒアリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令達額決定および令達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>

# 英語教育推進委員会 主な取組スケジュール

委員会	施策	H24.4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月				
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬					
英語教育推進委員会	ONHKと協働してオリジナルテキストを作成						●	←	●			←	●				←	●					←	●					←	●				←	●				
	ONHK英語教材の授業等における活用・研究	←	●									←	●					←	●					←	●					←	●				←	●			
	○拠点校を中心とした指導改善	←	●				●		●					●				←	●					←	●					←	●				←	●			
	○高校生を海外語学研修に派遣	←	●		←	●		←	●				●			←	●				●				←	●				●					●				

作成方針の決定

内容検討

内容検討

テキスト(案)  
完成

学校で活用・修正

製本

活用計画の策定

分析・検討

分析・検討

教材研究支援  
システムにアップ

活用・研究

第1回拠点校連絡協議会

第2回拠点校連絡協議会  
公開授業・研究協議会

指導改善研究  
学習到達目標の設定・改善  
(年間)

第3回拠点校連絡協議会

第4回拠点校連絡協議会  
公開授業・研究協議会

第5回拠点校連絡協議会  
公開授業・研究協議会

報告書作成

事後研修  
TOEIC・アンケート・プレゼン

研修成果・課題  
の検証

実行委員会の  
設置

業者選定

生徒募集・派遣生徒の決定

事前研修  
(TOEIC)

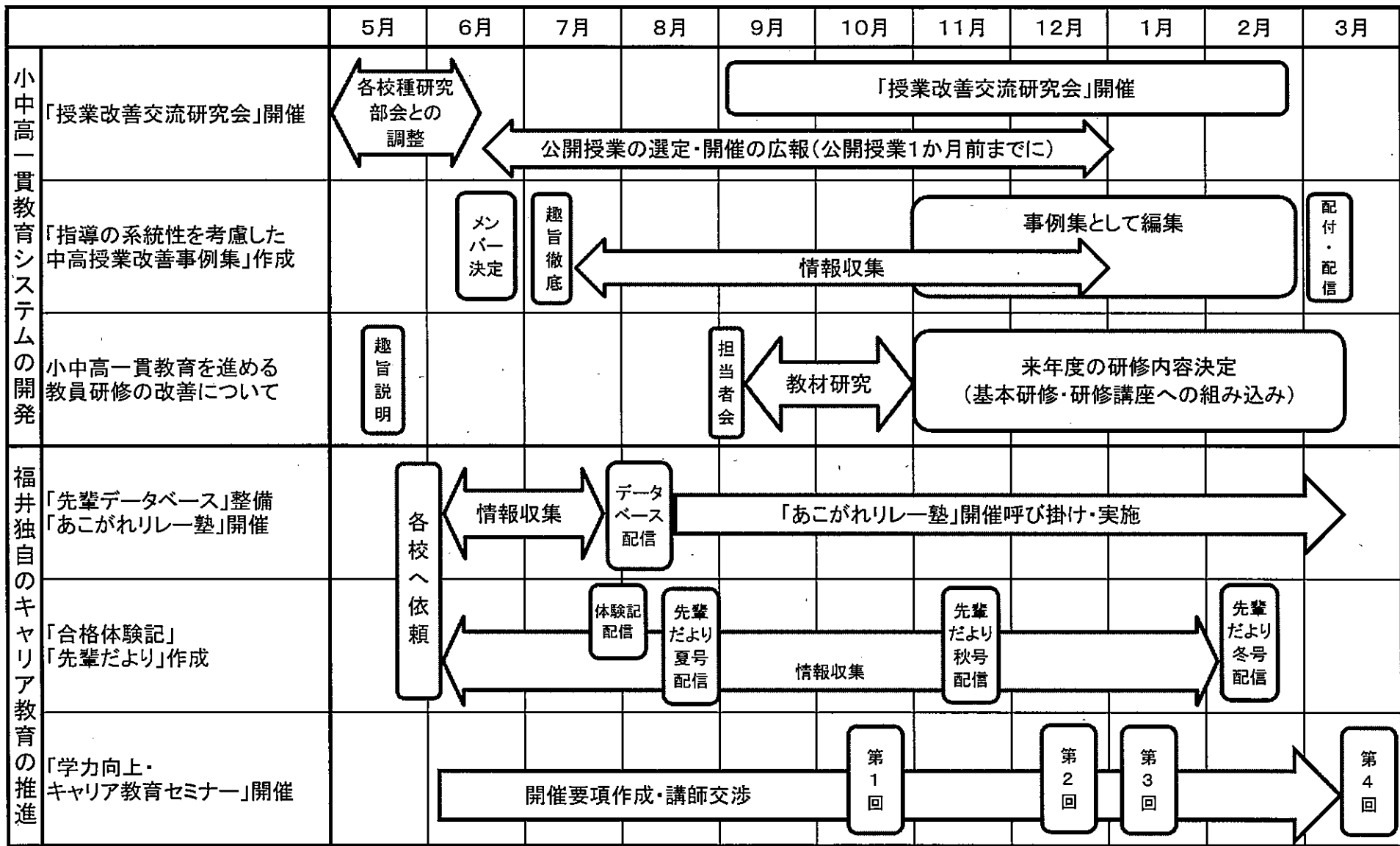
事前研修

派遣

## 英語教育推進委員会 進捗状況

	5月末まで	6月	5/30英語教育推進委員会での意見
NHKと協働してオリジナルテキストを作成	・(5/8)NHKエデュケーショナル鶴川陽一コンテンツ展開専任部長とNHK語学部にて打ち合わせ	・(6/6)第1回オリジナル教材作成委員会を開催し、鶴川氏との打ち合わせ内容を踏まえて、作成委員(県内の英語教員)と作成方針を検討(予定)  ・(6/11)第1回オリジナル教材作成委員会で出された意見を踏まえ、鶴川氏と作成方針を確認(予定)	・せっかく作成するのであるから、どの学校でも使えるような配慮をしてほしい。(要望)
NHK英語教材の授業等における活用・研究	・年間計画の(活用方法や使用教材等)作成	・モデル校(中学校10校)で活用開始	
拠点校を中心とした指導改善	・(4/20)第1回拠点校連絡協議会を開催 拠点校および協力校の研究主任等に事業概要を説明	・(6/7)第2回拠点校連絡協議会を開催し、外部有識者による指導・助言を仰ぐ 協議内容(予定) ア 学習到達目標 イ 年間事業計画 ウ 研究主題 エ 中高連携 など	・学習到達目標(CAN-DOリスト)はあまり細かいすぎない方がよい。 ・拠点校での公開授業や研究協議会は、「英語の授業をどのように英語で行うか」に焦点化したものにしてもらいたい。(要望)
高校生を海外語学研修に派遣	・(4/4)第1回事後研修 TOEIC受検 アンケート実施 ・(4/24)第2回事後研修 研究テーマに関するプレゼンテーション ・TOEICスコアおよびアンケート分析による成果と課題の検証	・研修報告書の印刷・配付(予定) ・実行委員会の設置(予定)	

# 教育力向上委員会 スケジュール



## 教育力向上委員会 進捗状況

		5月末まで	6月	5/16教育力向上委員会での意見
小中高一貫教育システムの開発	「授業改善交流研究会」開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の地区中教研での公開授業実態を調査</li> <li>・授業改善交流研究会は、小中は交流が進んでいる現状から、中高にしぼること、ブロックごとの公開授業参加を改めて依頼(小中の教育力向上推進委員に)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(6/12)中教研臨時理事会で、学校教育政策課から趣旨説明、交流会参加を依頼</li> <li>・(6/25)自主校長会で、学校教育政策課から趣旨説明、交流会参加を依頼</li> <li>・公開授業の選定を開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領の改訂の時期でもあり、校種を越えて、特に中高についてはこれまで顔を合わせる機会もなかったので、意義がある。</li> <li>・多忙化のことを考慮する必要がある。特に中学校は、高校にも小学校にも出向くことになり、負担が大きい。</li> <li>・関係機関(校長会、教育研究会)に趣旨、方法を丁寧に説明をしていくことが必要である。</li> </ul>
	「指導の系統性を考慮した中高授業改善事例集」作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「事例集」例を数学で作成</li> <li>・県の事業に参画する教員の全体像作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(6月上旬)「入試に関する情報提供」例を国語で作成</li> <li>・(6月中旬)教育研究所と県庁の指導主事担当者決定、趣旨徹底</li> <li>・(6月下旬)中学校、高校からのメンバー選出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「事例集」のイメージがわからない。</li> <li>・実務担当教員は、県の各事業に参画する教員の全体像を把握したうえで選定する必要がある。</li> <li>・責任者を明確にするべき。</li> <li>・日常的な授業改善、自発的な研究実践に取り組む福井の文化を大切にすることが重要。(全体に関する意見)</li> </ul>
	小中高一貫教育を進める教員研修の改善について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(5/18)「教員研修に関する協働研究会」で趣旨説明</li> </ul>		
キャリア教育の推進	「先輩データベース」整備 「あこがれリレー塾」開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤島、高志、羽水、武生の各高校へ出向き、「合格体験記」「ようこそ先輩」等のキャリア教育に関する情報を集め、現状を把握</li> <li>・(5/28)「合格体験記」「先輩だより」「先輩データベース」の協力を依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(6月中旬)「先輩データベース」作成開始</li> <li>(6月下旬)福井県版「合格体験記」仕様を決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画通り進めることで共通理解</li> </ul>
	「合格体験記」「先輩だより」作成			
	「学力向上・キャリア教育セミナー」開催		<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師選定に着手</li> <li>・開催要項作成開始</li> </ul>	